

ビデオカメラを学習活動に役立てる

6 年

活動名 国語 より良い「話す」について考え見よう



実践者 東柿生小学校 山田 和秀

1. 活動期間 平成18年6月

2. 活動のねらい

自分の話したいことは、きちんと伝えられているのだろうか。話し手であるわたし自身が確かめることによって、より良い「話す」について考える。

3. 活動の流れ

活動及び取り組みの流れ	支 援
<p>運動会をテーマに、スピーチ原稿を作成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の主張したいことが聞き手に伝わっているかについて考えよう。</p> </div> <p>スピーチ練習の過程で、ビデオカメラに向かってスピーチする。</p>  <p>カメラに納められた映像を見ながら、グループの人たちと一緒に、内容やより良い話し方について検討する。</p> <p>アドバイスカードを活用して、聞き手は話し手に自分の思ったことを伝える。</p> <p>話しては、アドバイスをもとにより良い話し方について工夫する。</p>	<p>自分の感動を友だちによく分かるように伝えるために、自分のスピーチを録画し、友だちと一緒に見てアドバイスすることを知らせる</p> <p>スピーチ原稿に作成について、自分の伝えたいポイントを明確にすることを大切にする。</p> <p>ビデオカメラの基本的な使い方や撮影された内容の活用の仕方について、知らせる。</p> <p>ビデオカメラの使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者の正面に構える ・三脚で固定する <p>活用の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正面を見て発表しているか ・話の早さや発音は、相手に聞きやすいか ・話の内容が分かりやすいか ・話して良さを認めながら、もっと良くなるようにアドバイスしよう 

4. この取り組みによって、子どもたちにどのような変化(成果)があったか。

自分の話している姿を自分自身が知ることは少ない。自分の発表の姿を見ることによって、友だちからのアドバイスの内容についても具体的に聞き取ることができ「話す・聞く」活動の目標を達成するのに役立った。

ビデオカメラやデジタルカメラを学習の中に活用することを通して、子どもたちが伝えたい内容を的確に伝える、子どもたちの表現活動に役立てることが期待できる。